

日本経済史Ⅰ

科目ナンバリング ECH-201
選択必修 2単位

宮田 純

1. 授業の概要(ねらい)

通史としての日本経済の歴史についての知識受容を通じて、大学生として、社会人として、あるいは今後の生活体系に不可欠な素養の蓄積をはかる。この修練は確実に経済活動を行うこととなる受講生にとって、きわめて有益な場となる。授業の聴講だけでなく、予習・復習を併せもつての学習が必要であるが、授業時に提示する重要キーワードについての事前学習(予習)、および、授業後の加筆も含めた知識の再整理(復習)を継続することにより、知的基盤の確立化がはかられる。本講義では原始・古代から開国期までを扱う。

2. 授業の到達目標

国際社会の中の日本、ならびに技術開発の進展といった観点から、経済活動の変質を把握し、通史としての日本経済史を把握することができる。
日本経済史を構成する専門用語に対して確実な理解を寄せ、それを適切に使用しながら表現することができる。
日本経済の過去の展開を把握したうえで、それを参考としながら現実を分析し、さらに具体的な未来を構想することができる。

3. 成績評価の方法および基準

試験100%(注:持込等は一切不可)
5回以上欠席した場合は受験できません。

4. 教科書・参考文献

5. 準備学修の内容

【予習】授業時に提示した重要キーワード(専門用語)についての事前調査学習
【復習】講義録に私見としての論述を施した再整理

6. その他履修上の注意事項

私語厳禁

7. 授業内容

- 【第1回】 はじめにーガイダンスー
- 【第2回】 日本経済史Ⅰの分析視角(1)ー時代区分の観点ー
- 【第3回】 日本経済史Ⅰの分析視角(2)ー日本経済史Ⅰを組成する要素ー
- 【第4回】 原始・古代社会の経済
- 【第5回】 中世社会の経済
- 【第6回】 戦国期の経済
- 【第7回】 織田信長の経済政策
- 【第8回】 豊臣秀吉の経済政策
- 【第9回】 徳川家康の経済政策
- 【第10回】 近世日本の経済事象
- 【第11回】 三大改革の史的意義
- 【第12回】 近世日本における開発経済論
- 【第13回】 開国の影響
- 【第14回】 まとめ
- 【第15回】 授業内定期試験